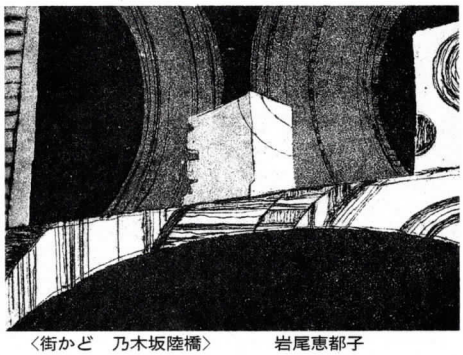
# 朝日 俳壇 歌壇



〈街かど　乃木坂陸橋〉　岩尾恵都子

## うたをよむ　惜しみなく励みあう

高田　正子

8月末、俳句甲子園の審査員長（計13人）の一員として松山市へ行った。優勝は名古屋高校であったが、私が初めて参加した2年前も、名古屋高校の試合を見た。そのときは対戦相手だった東京の海城高校が勝ったが、2校の白熱するディベートは、アーケード会場の暑さを忘れさせてくれるものだった。若くもなく、さして頑健でもない私が、年々厳しくなる残暑をほいほいと松山へ向かうのは、このときの衝撃のおかげに違いない。

さて松山へ集ってくる高校生たちも支える大人たちもあっぱれであるが、年々進化する大会運営のシステムとスタッフの働きにも目をみはる。スタッフの多くはOB・OGであるから、この大会は高校生と元高校生によって成り立っているともいえる。中には、さらに変化し続け、句集をまとめるなど、俳人として確かな足跡を残す人たちもいる。

**旅いつも雲に抜かれて大花野**

この句で大会の個人最優秀賞を受けた岩田奎は『膏』（2022年刊）で俳人協会新人賞と田中裕明賞を受賞した。安里琉太は『式日』（20年刊）で俳人協会新人賞を受賞。次の句が鮮烈だ。

**遠泳の身をしほがれの樹と思ふ**

後にもまだまだ若き才能が続く。

**掌が桃を離れて柔らかき　黒岩徳将**

**山吹の散り浮く沢に漱ぐ　若林哲哉**

俳句の未来が懸念されて久しいが、若い俳句は今日の次に明日が来ることを確信させてくれる。今に集中せよ。未来は当然その先にある。惜しみなく励みあう姿はまぶしい。今年もたっぷり熱量をもらった8月。

（「青麗」主宰・俳人）

## 馬場あき子選

Je te veux（大好きよ）小指絡ませ言ってみる日本語ではまだ上手く言えない　（京都市）長谷川恵子

☆一日に一回「愛の挨拶」を弾いて心を透き通らせる　（富山市）松田　わこ

「車輪の下」読みしは高一夏なりきヘッセが生きていたとは知らず（大和郡山市）四方　護

日本の柔道敗れて欧州のフェンシング敗れてパリは快晴　（長岡市）加藤　教

蟬しぐれ僧は告げけり疎開子に原爆孤児になりたることを　（アメリカ）大竹幾久子

☆黒シャツに白の細タイしゃれてたな楸邨教授の俳句の授業　（男鹿市）清水　玲子

ブラインド下げずに過ごす田舎の夜今宵はアンドロメダが爽やか（五所川原市）戸沢大二郎

暑さにて歪むレールを手作業で氷で冷やす鉄道員の夏　（石川県）瀧上　裕幸

息を吐くだけで終日もぐっても熱いプールにげんなりの河馬　（浜松市）松井　恵

勝手口側の木斛要注意山雀家族育児中です　（津市）海住　秀子

【評】第一首はJe te veux（大好きよ）という直な打ち明けも仏語だから言える。小指絡ませの具象が生きて、下句の素直な表現が好感につながる。第二首は曲名に託した思いもあるだろうか。若くさわやか。第三首のヘッセ、筆者も驚き。

## 佐佐木幸綱選

スケボーの解説「すげー」「やーば一」と斬新な響きアーバンスポーツ　（中津市）荒谷　みほ

二つめの馬術のメダル戦場に行かなくていい時代のメダル　（観音寺市）篠原　俊則

☆黒シャツに白の細タイしゃれてたな楸邨教授の俳句の授業　（男鹿市）清水　玲子

北斎に描かせてみたい猛暑日の入道雲の湧き立つ空は　（筑紫野市）桂　仁徳

休日は萩の湯呑で知覧の茶淡谷のり子のエッセイ偲ぶ　（流山市）石黒　紀夫

沢蟹をくわえて止まらん羽広げアカショウビンは皿ケ嶺の精　（東大阪市）川田　聰子

奥入瀬は瀬ごと瀬ごとに名を持ちて歩み止めさす緑陰深し　（名古屋市）磯前　睦子

ふるさとの家は閉ざされ静まれり猫鳴く庭に我は草引く　（横浜市）井上　優子

薔薇各種咲かせる庭を後にしてゆっくり歩き妻は入院　（岐阜市）後藤　進

講習のやうにはゆかず猪は罠を素通り辺りを荒らす　（館山市）川名　房吉

【評】第一首、パリ・オリンピックのスケボーの解説の斬新さ。第二首、ロス・オリンピック馬術の金メダリスト西竹一は、硫黄島で戦死。第三首、「朝日俳壇」選者でもあった加藤楸邨は、戦後、長く青山学院女子短大の教授をつとめた。

## 高野公彦選

沖縄のガイドブックを読み終はる基地なる文字に遇ふことのなく　（東京都）上田　国博

うすくれなゐ君に逢ふ朝塗るネイル固まる頃にときめき高まる　（大野城市）北原あかね

☆一日に一回「愛の挨拶」を弾いて心を透き通らせる　（富山市）松田　わこ

夕されば おのづと集ふ橋の上クールスポット川風涼し　（横浜市）森崎　貞夫

鬼百合と川原撫子咲き競う土手に国交省のキャタピラ　（津市）海住　秀子

戦争のない世の中を願いつつ非戦憲法変えたい首相　（朝霞市）岩部　博道

夕立の白き斜線に東京は消され版画の江戸浮かびくる　（羽村市）竹田　元子

烏瓜の花によく似たレース編みもっと誉めればよかった母を　（三鷹市）大谷トミ子

ネットでも投稿できるが一枚のはがきの旅を愉しむ「歌壇」　（札幌市）田巻　成男

難読なキラキラネーム流行る世に誰が読んでも読める慎之助　（名古屋市）三好　ゆふ

【評】一首目、沖縄の旅行案内書に全く基地の記述がないことを知った深い寂しさ。二首目、好きな人に逢う前の心の高揚感。三首目、英国の作曲家エルガーが、妻となるアリスに贈ったその曲を弾いて、日々心を透き通らせる作者。

## 永田和宏選

CとH組んず解れつ黒板に構造式の書き並べられ　（松山市）宇和上　正

スーパーで手をつながない6年生まだ恐竜のパジャマが似合う　（大阪市）菅波　麻子

夏休み初日の合唱練習にランドセルしょって行っちゃった　（成田市）かとうゆみ

落葉松のはざまに伸びし立秋の夕影白き信濃追分　（安中市）鬼形　輝雄

乗越へぐいと高度を上げてゆくガレ場の路を横ぎる蜻蛉　（神戸市）松本　淳一

廃炉あるふる里なんて全国にここだけだろう帰って来いよ　（郡山市）寺田　秀雄

「上空から見た二人には動きがない」なんと悲しい現実描写　（高槻市）川上　由起

うまい飯と酒と酸素があればよし二本のボンベをかかげて夫は　（名古屋市）植田　和子

ソプラノの「第九」の先生厳しくて「オの口でエを」「ウの口でイを」　（北九州市）福吉真知子

箸洗う賑やかな音一人ではないと頷く夏の夕暮れ　（松山市）矢野　絹代

【評】宇和上さん、ペンゼン環の亀の甲などだろうか。「組んず解れつ」にもうお手上げといった表情が。菅波さん、手を繋ぐのを嫌がるようになった子も、まだ恐竜のパジャマが似合っているところにほっとする。かとうさんは、小学五年生。

## 風信

**五島高資句集「星辰」**　第5句集。著者18年ぶりの句集で、333句を収録した。「かなかなや魂のずれととのへる」「石を積む月の光となりにけり」（角川書店・2970円）

**坂口昌弘著「忘れ得ぬ俳人と秀句」**　俳人論集。村上鬼城、富安風生、阿部みどり女、村越化石、川崎展宏、石牟礼道子ら物故した40人を紹介。（東京四季出版・2200円）

☆は共選作。入選作はデジタル版にも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。歌壇はネットでも投稿できます（週に2首まで）。QRコードから。